

令和 4 年 7 月 2 1 日
みどり 3 3 推進担当部
みどり政策課

令和 3 年度世田谷区みどりの資源調査結果の概要について（報告）

1．主旨

区では、世田谷区みどりの基本条例、同施行規則に基づき、みどり行政の今後の施策の基礎資料とすることを目的として「みどりの資源調査」及び「生物の資源調査」を 5 年毎に実施している。

この度、令和 3 年度に実施した本調査の結果（概要）を取りまとめたので、報告する。

2．調査項目及び手法

（1）みどりの資源調査

区内全域を対象に、緑被状況などについて航空写真判読、資料調査、現地調査等を実施した。

主な調査項目

緑被調査、みどり率調査、樹林地調査、樹木調査、接道部緑化調査、壁面緑化調査

（2）生物の資源調査

世田谷のみどりの特性や行政区域により 5 地区を選定し、植物、哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、昆虫類、魚類、底生動物について、現地調査した。

3．調査結果の概要

【別添資料】参照

4．今後の予定

令和 4 年 8 月 調査報告書の区政情報センター、図書館への設置及び区ホームページへの掲載

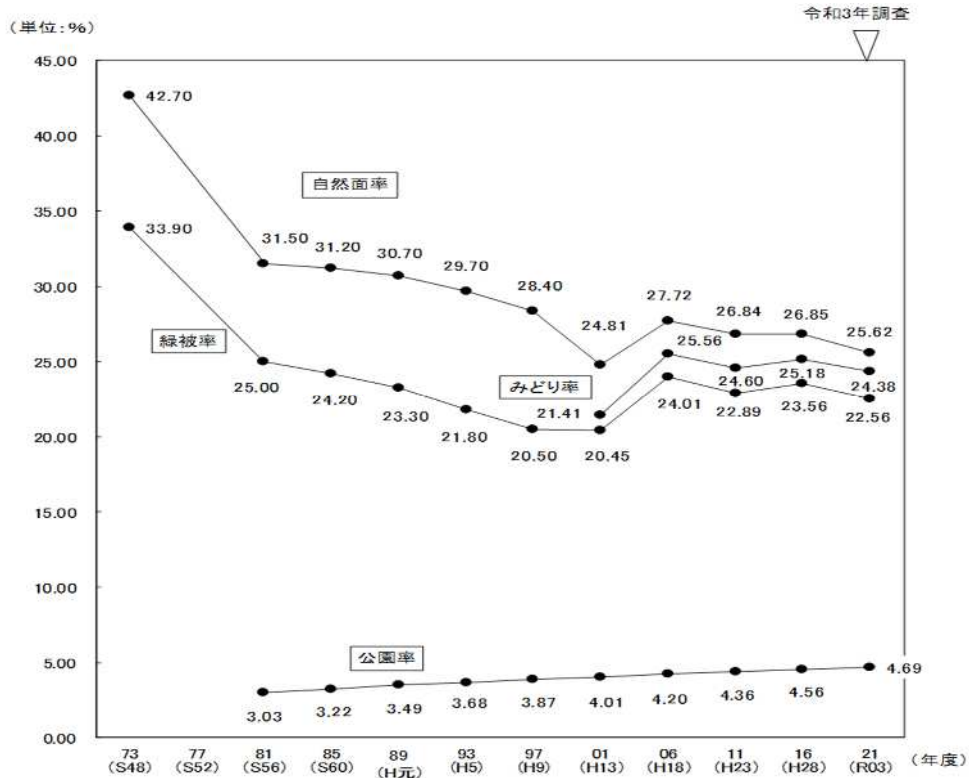
1. 「みどりの資源調査」の結果

(1) 緑被率・みどり率

		平成28年調査		令和3年調査		令和3年－平成28年		
		面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	ポイント差	
みどり 面	緑被	樹木地	1,011.48	17.42%	963.19	16.59%	-48.29	-0.83
		草地	230.46	3.97%	225.78	3.89%	-4.68	-0.08
		農地	104.41	1.80%	97.82	1.69%	-6.59	-0.11
		屋上緑地	21.17	0.36%	22.83	0.39%	1.66	0.03
		緑被計(緑被率)	1,367.52	23.56%	1,309.62	22.56%	-57.90	-1.00
みどり 面	水面	23.28	0.40%	26.88	0.46%	3.60	0.06	
	公園内の裸地・構造物	70.73	1.22%	78.84	1.36%	8.10	0.14	
	みどり面計(みどり率)	1,461.54	25.18%	1,415.34	24.38%	-46.20	-0.80	
その他		4,343.36	74.82%	4,389.56	75.62%	46.20	0.80	
世田谷区全域面積(ha)		5,804.90		5,804.90		0.00		

みどり率：緑被部分に水面と公園内の緑被以外の部分を加えた面積が区の総面積に占める割合
 緑被率：緑被部分が区の総面積にしめる割合
 緑被部分：上空から見たときに樹木、竹林、草地、農地などの緑が地表面を被う部分

自然面率・みどり率・緑被率・公園率の推移



自然面率：みどり率に裸地を加えた面積が区の総面積に占める割合
 公園率：区の総面積に占める公園面積の割合

(2) 緑被の主な減少要因

）敷地規模の大きい施設整備による樹木、草地の減少

平成28年からの5年間に、複数の敷地規模の大きい住宅団地やJRA馬事公苑、第一生命グラウンド、都立園芸高校など、比較的規模が大きい敷地において、施設整備による樹木地や草地が減少した事例が多いことがあげられる。



緑被の減少事例（JRA馬事公苑）

）敷地の細分化による樹木の減少

独立住宅の敷地面積150㎡未満の敷地数は、平成23～28年調査、平成28～令和3年調査共に増加しており、引き続き敷地の細分化が進んでいることが分かる。150㎡未満の独立住宅で敷地数が特に増えているのは、110㎡未満のものであり、このような小規模な独立住宅では緑化余地がほとんどないため、小規模な独立住宅が増えることで緑被面積が減少することとなる。緑被率が比較的高い玉川地域、砧地域、烏山地域では、敷地の細分化が可能な屋敷林等を有する住宅地が多いため、緑被率の減少も大きくなっている。



敷地細分化による緑被減少事例（喜多見四丁目）

）宅地化による農地の減少

宅地化による農地の減少(6.59ha減少)も続いている。農地は敷地全体が緑被のため、1箇所当たりの減少面積が大きい。

(3) 土地利用別の緑被面積

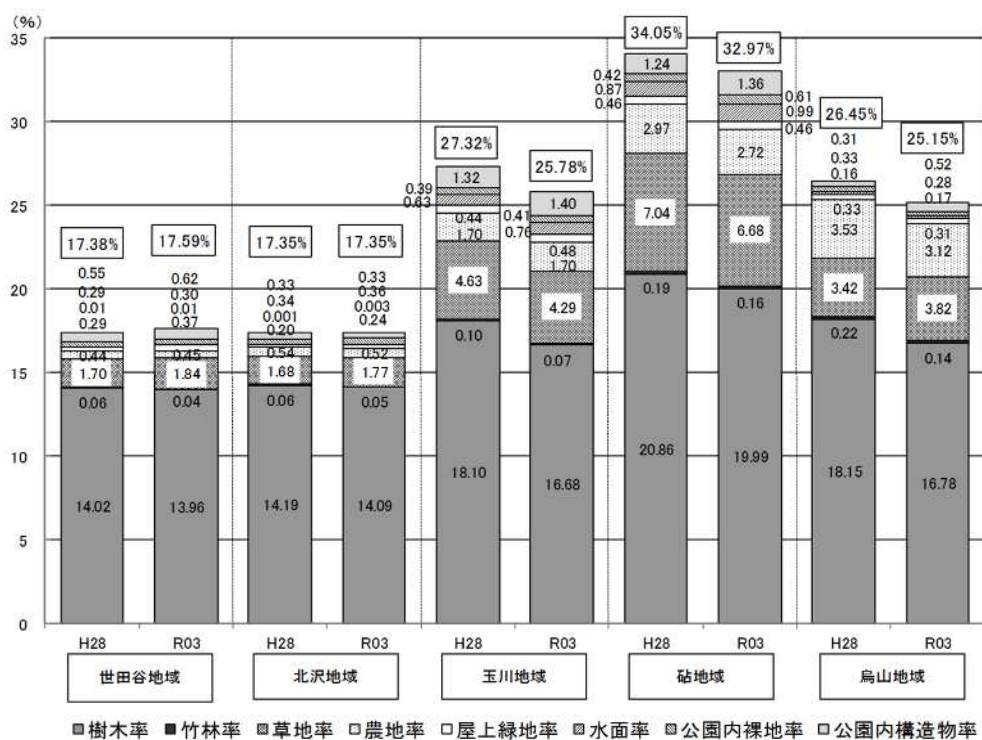
土地利用別の緑被面積で増加が最も大きい土地利用は集合住宅であった。区内の土地利用としても集合住宅は増加しており、比較的敷地規模が大きく緑化基準の対象になりやすい集合住宅の増加に伴う緑地整備により緑被面積が増加している。

一方、減少が大きい土地利用は、道路や公園・運動場等、独立住宅、屋外利用地、仮設建物であった。道路は、接道する敷地からの樹木の越境が少なくなったことにより減少したものと考えられる。また、公園・運動場は、JRA 馬事公苑などの施設整備による樹木の減少が見られる。

区内の約3割を占める独立住宅については、小規模な敷地が増加していることによる緑被面積の減少が見られる。

(4) 5地域のみどりの状況

地域別のみどり率は、砧地域が32.97%で最も高く、北沢地域が17.35%で最も低い。前回調査との比較では、世田谷地域と北沢地域が増加し、他の地域は減少した。減少ポイントが最も大きいのは玉川地域の1.54ポイントであった。



2. 「生物の資源調査」の結果

5地区合計の主な確認種数は、多い順に、植物が824種、昆虫類が530種、底生動物が79種、鳥類が38種であった。

市街地で一般的に見られるスズメやムクドリなどの種が多く確認された。また、食物連鎖の上位に位置するオオタカやチョウゲンボウ、タヌキなどが確認された他、樹林環境や水辺環境などの限定的な環境に依存するため近年の開発等による減少が指摘されているオオアメンボやヤマトタムシなどの重要種も複数確認された。一方で、従来の生態系への悪影響を与えることが懸念されている、特定外来生物のアレチウリやアカボシゴマダラ、アライグマが確認された。

確認種数一覧（5地区合計）

	植物	哺乳類	爬虫類	両生類	鳥類	昆虫類	魚類	底生動物
確認科数	138科	5科	4科	1科	24科	156科	3科	47科
確認種数	824種	5種	5種	1種	38種	530種	5種	79種

確認種数一覧（5地区別）

調査地区番号	地域区分 ^{注)}	行政区域	調査地区名	確認種数							
				植物	哺乳類	爬虫類	両生類	鳥類	昆虫類	魚類	底生動物
1	みどりの連続性が高い地域	砧	都立砧公園	477	3	4	0	32	283	2	52
2		玉川	等々力溪谷公園	299	4	3	1	19	172	4	46
3	住宅地の中に中・小規模緑地が点在する地域	烏山	給田四丁目緑地とその周辺	480	1	3	0	18	210	-	-
4		世田谷	烏山川緑道	371	1	2	0	17	201	-	-
5	市街化が進み比較的にみどりが少ない地域	北沢	大原一丁目柳澤の杜市民緑地とその周辺	391	0	1	0	12	122	-	-

地域区分は、平成28年度策定「生きものつながる世田谷プラン」による